

## PHEV 普及への課題考察 青森県など 3 者講演 / JHIF (2008/03/12, 電気新聞)

日本水素エネルギー産業会議 (JHIF、会長 = 平田賢・東京大学名誉教授) はこのほど、東京工業大学百年記念館 (東京都目黒区) で第 8 回会議を開催した。「プラグインハイブリッド自動車の動向」と題し、プラグインハイブリッド車 (PHEV) の導入に積極的な青森県、フランス電力 (EDF)、トヨタ自動車の関係者がそれぞれ講演を行った。

講演した高坂幹・青森県エネルギー総合対策局副参事は、同県による PHEV を核とした地域エネルギー構想を紹介。「省エネルギーモデル事業の実施とともに、補助制度や税制優遇の導入推進を検討し、運輸部門省エネ社会構築の先駆けとしての地位を築きたい」と述べ、今年 6 月に同県で開催される G8 エネルギー大臣会合などでも PHEV のデモンストレーションを行い取り組みを積極的にアピールするとした。

イゴール・ツェルニー・EDF 日本・韓国地域総代表は、同社の電気自動車部の歴史や現在の取り組みについて触れ、「電気による輸送の進化は、原油、ガス価格の高騰や、環境、健康との関係からも有効な答えのひとつになる」と述べた。

また田坂一美・トヨタ自動車東京技術部環境グループ長・担当部長は、PHEV の普及に向け、「電気自動車としての走行可能距離とユーザーメリットのバランスが重要だ」と指摘。「航続距離、バッテリーサイズ、充電時間などを考慮すると、現時点ではハイブリッド車をベースとした PHEV を採用するのが妥当だ」と述べた。